

社会資本総合整備計画 事後評価書

令和04年03月18日

計画の名称	新山口駅周辺における機能的な都市基盤が整い、発展していくまち													
計画の期間	令和02年度 ～ 令和02年度（1年間）											重点配分対象の該当		
交付対象	山口市													
計画の目標	新山口駅周辺は、山口県のほぼ中央に位置する交通の要衝、陸の玄関として、新山口駅の駅南地区を中心に広域的なエリアを管轄する事業所やホテル等の集積が進み、経済・産業部門における広域的な拠点性を高めています。一方で古くからの市街地である駅北地区は都市機能やにぎわいが不足しているほか、動線、乗り換え、案内機能、景観、南北の一体性の欠如、大規模遊休地等多くの課題が見受けられます。 新山口駅を中心とした都市基盤の整備を行うことにより、「山口らしさ」を考慮した市及び県の玄関としてふさわしい都市空間を創出するとともに、周辺地域の回遊性、交流に配慮した整備を行い、利用者の利便性やにぎわいの向上を図ります。 ・大目標 山口県の陸の玄関としての快適かつ個性的な都市空間の形成 目標① 新山口駅南北の一体性の確保の促進とたまり空間の創出 ② 新山口駅を中心とした交通結節・アクセス機能の強化 ③ 立地特性を活かした都市機能の充実と質の高い市街地の形成													
全体事業費（百万円）	合計（A+B+C+D）		590	A	505	B	0	C	85	D	0	効果促進事業費の割合C／（A+B+C+D）	14.4	%

番号	計画の成果目標（定量的指標）			
	定量的指標の定義及び算定式	定量的指標の現況値及び目標値		
		当初現況値	中間目標値	最終目標値
		(H27当初)	(H29末)	(R2末)
1	駅南北間の通路における日当たりの鉄道利用者を除く通行者数を1,845人／日(H26)から2,000人／日(H31)に増加			
	駅南北間の歩行者交通量を調査する。	1845人／日	人／日	2000人／日
	自由通路の歩行者交通量のうち鉄道利用者を除く日当たり通行者数			
2	駅や主要なバス停での乗換え満足度を64%(H25)から70%(H31)に増加			
	駅や主要なバス停での乗換えの利便性に関する市民アンケート調査により、新山口駅周辺地域において満足している人の割合を算出する。	64%	%	70%
	（満足している人の割合）＝（“満足・どちらかといえば満足・普通”のアンケート回答者数）／（アンケート回答者全数）×100			
3	新山口駅北地区重点エリア内の低未利用率を38%(H26)から20%(H31)に減少			
	新山口駅北地区重点エリア内の低未利用地の土地の割合を算出する。	38%	%	20%
	（重点エリア内の低未利用率）＝（低未利用地の面積）／（重点エリアの面積）×100			

備考等	個別施設計画を含む	－	国土強靱化を含む	－	定住自立圏を含む	○	連携中核都市圏を含む	○	流域水循環計画を含む	－	地域再生計画を含む	－
山口市定住自立圏共生ビジョンに基づき実施される要素事業：基幹事業全て 市街地総合再生計画：新山口駅北地区 6年計画のうち最終1年分												

A 基幹事業																			
基幹事業（大）	番号	事業 種別	地域 種別	交付 対象	直接 間接	事業者	種別 1	種別 2	要素となる事業名 （事業箇所）	事業内容 （延長・面積等）	市区町村名／ 港湾・地区名	事業実施期間（年度）					全体事業費 （百万円）	費用 便益比	個別施設計画 策定状況
		一体的に実施することにより期待される効果																	
		備考																	
住環境整備事業	A16-002	住宅	一般	山口市	間接	新山口駅北 地区市街地 再開発組合	－	－	新山口駅北地区第一種市 街地再開発事業	A=0.4ha、住宅・宿泊等	山口市	■					246	1.32	－
												小計					246		
											合計						246		

事後評価

○事後評価の実施体制、実施時期

事後評価の実施体制	事後評価の実施時期
学識経験者等の第三者の意見を求めるために設置した新山口駅周辺地区（２期）都市再生整備計画事後評価委員会の評価に基づき、山口市で評価を実施。	令和３年度
	公表の方法
	山口市ホームページにより公表

○事業効果の発現状況

定量的指標に関連する 交付対象事業の効果の発現状況	南北自由通路の開通、駅前広場・施設の整備等により、南北自由通路の利用者が増え、交通量が大幅に増加した。
定量的指標以外の交付対象事業の 効果の発現状況（必要に応じて記述）	駅前広場や自由通路の整備により、快適で利用しやすい公共空間が創出され、住民や事業者、まちづくり団体等によるイベントでの利用が増加し、にぎわいを創出している。

○特記事項（今後の方針等）

・南北自由通路や駅前広場の適切な維持管理を行い、修景整備・保全に努めるとともに、イベント等による南北自由通路や駅前広場のさらなる利活用促進を図る。
 ・新山口駅及び産業交流拠点施設周辺のにぎわいを、既成市街地や周辺施設に波及させるため、一体的な利用や連携を促進する。
 ・未完了である情報板設置事業を推進するとともに、公共交通に関する情報発信の強化や、利用しやすい公共交通環境の整備により、利用促進を図る。
 ・重点エリアにおける拠点施設や広場整備を早急に進めるとともに、積極的な民間活力の誘引により土地利用を促進し、地域住民の交流の場の形成や、地域産業振興拠点として発展の推進を図る。

○目標値の達成状況			
番号	指標（略称）		
	目標値／実績値		目標値と実績値に差が出た要因
1			
	最 終 目標値	2000人／日	
	最 終 実績値	2681人／日	
2			
	最 終 目標値	70%	駅前広場の整備により、乗り換えの利便性は向上したものの、情報板設置事業が未完了であり、事業の効果が十分に発現されていない。また、交通系ICカードの導入など新たなニーズへの対応が必要。
	最 終 実績値	64%	
3			
	最 終 目標値	20%	
	最 終 実績値	18%	